

# 下部消化管出血に対する金属コイルを使用した 超選択的血管内治療の有用性に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2020年8月12日～2021年3月31日

**〔研究課題〕** 下部消化管出血に対する小径サイズの金属コイルを使用した超選択的経カテーテル的動脈塞栓術の有用性の検討

**〔研究目的・意義〕** 下部消化管出血に対する止血方法としては、内視鏡的止血術、カテーテルによる止血術、手術による止血術などが挙げられますが、カテーテルによる止血術は体への負担が少なくかつ止血率も高く、その有用性は以前より報告されてきました。カテーテルによる止血術においては、塞栓する血管の部位をどこにするべきか、また使用する塞栓物質は何を使うべきか、ということが注目されますが、塞栓物質として金属コイルを用いた場合の検討は、症例報告はあるものの、まとまった報告はこれまで過去にありませんでした。私たちの研究では、下部消化管出血に対し、出血部のできる限り近傍にて金属コイルで塞栓術を行った患者様の経過を検討し、その有用性を明らかにする研究を行います。

**〔対象・研究方法〕** 2013年12月から2020年3月までの間に、徳島赤十字病院および帝京大学医学部附属病院において、下部消化管出血に対して内視鏡的止血術が困難であったため、カテーテル治療により金属コイルを用いて、出血部の責任血管(直動脈といいます)を塞栓した患者様を対象にします。カテーテル治療時の血液検査のデータ、カテーテル治療内容および合併症の有無、術後経過における再出血などについて、診療記録を振り返って後方視的に検討します。

**〔研究機関名〕** 徳島赤十字病院および帝京大学医学部附属病院

**〔個人情報の取り扱い〕** お名前や個人情報が公表されることは一切ありません。本研究は、文部科学省・厚生労働省「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に従い、対象となる患者さんの個人情報の管理は徹底するとともに、研究内容の情報を公開することとさせていただいております。また研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

## 問 い 合 わ せ 先

研究責任者 : 人見 秀 (帝京大学医学部放射線科学講座 臨床助手)

情報管理責任者: 座古 竜世 (帝京大学医学部放射線科学講座 助教)

帝京大学医学部放射線科学講座医局 TEL: 03-3964-4098 [内線: 49321]